認定第１号　令和７年度東郷町一般会計歳入歳出決算認定について

討論一覧（討論順掲載）

反対討論 門原武志　議員

暮らし支える施策に課題

令和７年度決算では、物価高の下で暮らしを支える施策、妊産婦の移動支援、がん検診に課題が残った。生活困窮に関する「地域の困り事等」の初回相談は前年度 13 件から 62 件に増え、町も物価上昇を要因の一つに挙げた。相談体制の充実は評価するが、住民負担を軽くする施策も必要であった。妊産婦タクシー助成を廃止した一方、デマンドタクシーは妊産婦向けの案内がなく、代替策とも位置づけられていなかった。また、前立腺がんを除く検診の受診者数が減少し、町は申込期間の短縮や周知不足を理由に挙げた。職員体制の強化や産後ケアなどの成果は評価するが、課題は残った。決算認定は、支出の数字が合っているかを確かめるだけではなく、その支出や事業の見直しが住民の暮らしにどのような結果をもたらしたかを評価するものである。当初予算で懸念した問題と決算審査で明らかになった結果を踏まえ、本決算の認定には賛成できない。

賛成討論 石原えりか 議員

産後ケア・参画を推進！令和７年度決算

令和７年度決算は、組織改革により職員が一体となって施策を推進した姿勢を評価する。町制施行 55 周年事業は定例行事と効果的に連動し、祝い楽しむ気運を創出した。 子育て分野では産後ケアの拡充を評価し、産前産後サポーター事業の周知徹底を求める。「東郷町版コミュニティ・スクール」は地域で子どもを育む大きな一歩であり、課題を糧としたさらなる推進を期待する。「町長と語ろう会」など広聴施策により町民参画の意欲が高まっており、町民とつくるまちづくりを継続されたい。 運営面では、複雑化する課題に対し部署間の垣根を超えた横断的連携の強化を要望する。窓口改革が進む中、適正な規模感を生かした寄り添う行政サービスの展開を期待する。 本決算は「いま」と「未来」を両立させた着実な執行であった。高まる町民の期待に応えるため、職員の真価を発揮し施策へ還元することを求め、認容の討論とする。

賛成討論 高木佳子 議員

令和７年度は、町長交代後、新たな町政運営のもと、町長のビジョンを初めて反映した当初予算が執行された一年であった。当初予算の賛成討論で評価した、「町民みんなでまちづくり」「みんなが安心できる役場づくり」を基盤とした町政運営、組織機構改革、健康・福祉・子育て支援の充実、防災・安全対策の４点について、それぞれ具体的な取組につなげられたものと受け止めている。特に、防災安全課の設置や住宅の耐震化支援の拡充、被災者生活再建支援システムの導入など、町民の生命と財産を守る取組を評価したい。一方、決算は成果や課題を検証し、次の施策につなげることが重要。部署間の連携や情報共有をさらに強化するとともに、ハラスメント事案の教訓を風化させず、職員が安心して働き、町民から信頼される役場づくりを進め、「未来が想像できるまち」の実現につなげていただくことを期待する。